

クソIT系

☒ 「IT系」と言われる仕事の実態

日本の専門学校や一般企業が「IT系」と呼ぶ職種は、大きく次のように分かれます：CS=Computer Science

分類	仕事内容	コンピュータサイエンスとの関係
① システムエンジニア (Sier系)	顧客の業務システムを設計・構築・納入する。要件定義、設計書作成、発注、ベンダー管理など。	理論よりも 業務知識・調整力 中心。CSとは距離がある。
② プログラマ (下請け開発)	上流設計に基づきコードを書く。	一部アルゴリズム理解が必要だが、 工学 というより 技能職 に近い。
③ インフラ・ネットワーク職	サーバやネットワークの構築・保守。	OS・通信・セキュリティの実務知識中心。理論的なネットワーク科学とは別物。
④ ITコンサル/導入支援	業務効率化やクラウド導入の提案、運用支援。	テクノロジー理解 より 業務コンサル色 が強い。
⑤ 企業の情報システム部門 (情シス)	社内システムの選定・調達・保守。	CSとは無縁 。購買・ヘルプデスク業務も多い。

☒ 一方の「コンピュータサイエンス」とは

CSは「情報処理の原理」そのものを研究・応用する分野で、主に以下のような内容を含みます。

- アルゴリズムと計算量理論
- データ構造・オートマトン理論
- オペレーティングシステム・コンパイラ
- グラフィックス・AI・機械学習
- 分散システム・ネットワーク理論

これらは**「技術を創る側」**の知識体系であり、実務で言う「ITを使う/導入する側」とは明確に異なります。

☒ なぜ専門学校の「IT系」と乖離しているのか

いくつか理由があります：

1. 就職先がCSを必要としない業界が多い (Sier・受託開発・情シスなど)
2. 教育課程が企業の即戦力 (Word/Excel/資格) 寄りに設計されている
3. 「理論よりスキル (ツール操作)」の需要が高い
4. 日本の「IT産業」が技術開発よりも“システム納入業”中心に発展した歴史

つまり、日本では「IT=情報システム導入業界」という構造的な事情があり、「CS=情報科学的探求」とは異なる**職能文化**が形成されています。

☒ まとめ

- 日本で「IT系」と呼ばれる仕事の多くは、**CS (理論・開発)**ではなく、**運用・導入・調整業務**。
- コンピュータサイエンス的な職種は、**研究開発・プロダクト開発・ゲーム開発・AI分野**など、少数派。
- 専門学校の「IT教育」は、どちらかといえば**職業訓練 (実務対応)**寄り、CS的素養を育てるものではない。

☺Revision #2

★Created 5 November 2025 16:17:56 by youe2

✍Updated 2 June 2026 21:32:18 by youe2